

学校評価書

＜重点目標①（知）＞ 確かな学力の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	今後の取組
自分の考えを分かりやすく伝える・表現する力の育成と学力の向上	(1)	アンケートの結果と、各種学力調査の結果及び英検、漢検等の達成状況から評価する。	生徒	①授業では、集中して先生や友達の話聞いている。	97.4	a	B	生徒の授業に対する取組は良好であるが、「授業が分かる」と回答している保護者の割合は73.8%、「学習に対して意欲的である」と回答した保護者の割合は52.4%であり、生徒との回答に開きがある。学校の取組が十分に保護者に伝わっていないと考えられる。	保護者に学習活動の様子を知ってもらうために、家庭学習のノートや授業研究の取組の様子を学校だよりに掲載する。
				②授業では、話し合い活動に積極的に取り組んでいる。	100.0				
			保護者	①お父さんは、「授業が分かる」と言っている。	73.8				
				②お父さんは、学習に対して意欲的であると感ずる。	52.4				
			教員	①校内研究の研究主題を意識して学習指導に取り組んでいる。	100.0				
				②ゴールイメージを持ち、それに到達できるような資料の提示をしている。	100.0				
③授業のまとめを、生徒の言葉で表現させている。	100.0								
家庭学習の質的向上と学習習慣の定着	(1)	アンケートの結果と、家庭学習時間調査の結果から評価する。	生徒	③家庭でも時間を決めて学習に取り組んでいる。	82.5	c	B	「家庭で時間を決めて学習に取り組んでいる」と回答した保護者の割合は47.6%、「定期テストに向けた計画的に学習に取り組んでいる」と回答した保護者の割合は59.5%になっている。生徒の意識と保護者の認識の差が見られることから、学校の発信が十分でないことが考えられる。	「定期テスト学習計画表」に保護者欄を設け、保護者にサインをしてもらうことで、生徒の家庭学習について共有を図る。
				保護者	③お父さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。				
			④お父さんは、定期テストに向けて計画的に家庭学習に取り組んでいる。		59.5				
			教員	④授業とリンクした予習・復習の課題を出している。	87.5				
ICTを生かした学びの改善	(1)	ICT機器の活用による授業改善とGIGA構想に基づく学びの質の向上を評価する。	生徒	④ICT機器を有効に学習に生かしている。	97.5	a	98.8	ICT機器を適切に活用して、学習と授業改善に取り組んでいる。	今後もICTを有効活用した授業改善に取り組み、学力向上を目指す。
				教員	⑤ICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。				
新聞や読書を通しての活字への慣れ親しみ	(1)	200字作文、アンケート結果、読書調査から、文字や文章に慣れ親しんでいるか評価する。	生徒	⑤学校や家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる。	70.0	d	60.1	「家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる」と回答した保護者の割合は21.4%になっている。全国的には2%程度であるが、200字作文の記事が載っているなど、学校の取組が十分に伝わっていないと思われる。	読書習慣や、冬休みに「家庭読書」の取組をし、家庭での読書週間を身に付けるようにする。
				保護者	⑤家庭で新聞や本を通して活字に親しんでいる。				
			教員		⑥新聞や読書で活字に親しむように指導している。				

＜重点目標②（徳）＞ 豊かな心の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
自己肯定感・自己有用感の涵養	(2)	アンケートの結果と、学校行事の様子から評価する。	生徒	⑥自分には、よい面がある。	85.0	a	A	生徒の自己肯定感は良好で、進路についても家で話している様子が伺える。	・引き続きこれまでの取り組みを継続していく。
				⑦これからの自分のことについて考えている。	87.5				
			保護者	⑥学校は生徒の良い面を伸ばしてくれている。	90.2				
				⑦お父さんのこれからのことについて話をしたことがある。	85.7				
			教員	⑥生徒のよい面を積極的にほめている。	100.0				
いじめ・不登校のない学校づくり	(2)	アンケートの結果と、実際のいじめ、不登校の件数や経緯から評価する。	生徒	⑧自分は、友だちを大切にしている。	100.0	a	96.0	「いじめや不登校のない学校・学級づくりに取り組んでいる」と評価している保護者の割合が88.1%と適切に評価されている。	・道徳や学活など授業を通して子どもの居場所づくりに努める。 ・生徒が欠席した際の連絡を継続して行う。
				保護者	⑧学校は、いじめや不登校のない学校・学級をつくらうとしている。				
			教員		⑧積極的・継続的にいじめ、不登校のない学校・学級づくりを心がけている。				
基本的生活習慣の定着	(2)	アンケートの結果と、学校公開等での意見から評価する。	生徒	⑨自分は、挨拶がしっかりできている。	95.0	a	87.6	「自分の子どもは11時までには寝ている」と回答した保護者の割合は66.7%になっており、生徒との回答に差がある。	・生活習慣を整えることやその大切さについて集会や教室、保健だより等で伝える。また、生徒会活動とも関連させ、生徒からの働きかけも行う。 ・上記の取り組みについて、便り等で伝え、保護者にも呼びかけをしてもらうようお願いする。
				⑩語先後礼・無言清掃に取り組んでいる。	95.0				
				⑪11時までには寝ている。	80.0				
			保護者	⑨生徒たちは、挨拶がしっかりできている。	76.2				
				⑩お父さんは11時までには寝ている。	66.7				
			教員	⑨学校でのルールを生徒に守らせるよう指導している。	100.0				
⑩語先後礼・無言清掃の指導をしている。	100.0								
生徒会活動・係活動の活性化	(2)	アンケートの結果と、生徒会の取組を客観的に評価したり、係活動の足跡から評価したりする。	生徒	⑫生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる。	100.0	b	82.3	「子どもが生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる」と回答した保護者の割合は69.0%になっている。学校での活動の様子が十分に伝わっていないと考えられる。	・生徒会活動、係活動でどのような取り組みを行っているか、学校だよりやHP等で積極的に発信していく。
				保護者	⑪お父さんは、生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる。				
			⑫学校は、子どもたちが地域で活躍できる機会を充実させている。		71.4				
			教員	⑪委員会活動や係活動は、普段の生活にも生きるように指導することを心がけている。	88.9				

<重点目標③(体)> 健やかな体の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
体育や諸活動の充実による体力・運動能力の向上	(3)	アンケートの結果と、対外的な活動の様子や、学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑬体育や運動を通して、体力の向上を図っている。	97.5	a	B	「体力の向上を図る」取組は、肯定的に評価されている。	・体育の授業や部活動でのトレーニングメニューを取り入れ、運動量を確保しながら体力の向上を図る。 ・生徒会委員会の活動の中で、運動・体力の向上を目的とした取組を計画・実施する。
			保護者	⑬学校は、体育・運動を充実させ、体力の向上・耐える力の向上を図っている。	81.0				
			教員	⑭体力・運動能力の向上や耐える力の向上を図っている。	88.9				
安心・安全な学校づくりと防災教育の充実	(3)	アンケートの結果と避難訓練、危機管理マニュアルを活用した対応等で評価する。	教員	⑬学校内外の安全指導の徹底を図っている。	100.0	a	B	安全指導の徹底が図られている。	今後も安全指導を継続し、常に現状を把握していく。
学校と家庭の連携による共同体制づくり	(3)	アンケートの結果と、生活アンケートの結果から評価する。	生徒	⑭ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、それを守っている。	77.5	b	B	「ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、守っている」と回答した保護者の割合は47.4%になっている。ルールについて十分に話し合う機会がない家庭があると考えられる。	・各家庭の端末の使用についてのルールを確認してもらおう。ルールが無い家庭については、相談してルールを作ってもらおうなど、生徒が適切に端末を使用する環境を整える。
			保護者	⑭お子さんは、ゲーム、パソコン、スマホ等は家庭の決まりをつくり、それを守っている。	47.7				
			教員	⑭望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組をしている。	100.0				

<重点目標④> 信頼される学校づくり

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
信頼される学校づくり	(4)	アンケートの結果と、対外的な活動の様子や学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑮学校に行くのは楽しい。	89.8	b	B	「信頼できる先生がいる」と回答した生徒の割合は75%、保護者の割合は80.9%となっている。概ね良好である。	・どの生徒にも常に声掛けをしたりするなど、生徒が見守られているという意識が持てるように働きかける。 ・学校の教育活動について積極的に発信し、活動の意図やその成果を共有し、信頼を多く得られるように取り組む。
				⑯信頼できる先生がいる。	75.0				
				⑰地域の行事に積極的に参加している。	82.5				
			保護者	⑮お子さんは、学校へ行くのが楽しそうである。	78.6				
				⑯信頼できる先生がいる。	80.9				
				81.4					

<重点目標⑤> 組織的な学校づくり

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	アンケート結果	自己評価	中間評価	分析	分析と今後の取組
業務改善の取組	(5)	アンケートの結果と、業務改善の具体的な項目を明らかにして評価する。	保護者	⑰学校は、多忙化改善に向けた取組を積極的に進めている。	90.2	a	A	多忙化や業務改善に向けた取組が肯定的に評価されている。	・全職員が組織的に校務分掌やその他の業務にあたることで、業務の平準化を図る。
		教員	⑱業務改善に向けた積極的な取組を実践している。	88.9					
組織的な学校づくり	(5)	アンケートの結果と、各種たよりの発行回数、HPの更新頻度等を合わせて評価する。	教員	⑰各種たより等を通じて、情報発信している。	88.9	a	A	学校からの情報発信、保護者との連絡、服務規律の遵守、管理職への報連相は適切に評価されている。	・引き続き、これまでの取組を継続していく。
				⑰生徒のことに、保護者との連絡をとっている。	100.0				
				⑱服務規律を遵守している。	100.0				
				⑲管理職への報告・連絡・相談を行っている。	100.0				

《アンケート集計から自己評価までの流れ》
 ① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する。
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が85%以上 ⇒ a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が75%以上 ⇒ b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が65%以上 ⇒ c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が65%未満 ⇒ d
 ② 評価の方法に記載してある方法で自己評価を行う。

